自閉症の人たちの
豊かな育ちと暮らしを支える

20年のあゆみ

自閉症総合援助センター

社会福祉法人 萌葱の郷

目　　次

1. ごあいさつ

社会福祉法人　萌葱の郷　理事長　　五十嵐　康郎 …… 1～2

2. 祝　　辞

自由民主党　参議院議員　　衛藤　晟一 …… 3
豊　後　大　野　市　長　　橋本　祐輔 …… 4
大分県福祉保健部長　　永松　　悟 …… 5
日本自閉症協会　前会長　　石井　哲夫 …… 6
大分県自閉症協会　会長　　平野　　亙 …… 7
保　護　者　会　会長　　仲間　克之 …… 8
広　域　親　の　会　会長　　小倉　美紀 …… 8

3. 萌葱の郷の 20 年

沿　　革 …… 9
思い出のアルバム …… 10～11
利用者作品集 …… 12～13
新聞記事にみる「萌葱の郷の 20 年」 …… 14～16

4. 萌葱の郷の施設紹介

障害者支援施設 「めぶき園」 …… 17～18
就労支援施設 「どんこの里いぬかい」 …… 19～20
ケアホーム 「かわしま」 …… 21
ホームヘルプサービスセンター 「らすかる」 …… 22
こども発達支援センター 「なごみ園」 …… 23～24
大分県発達障がい者支援センター　ＥＣＯＡＬ …… 25～26

5. 20 周年を迎えてのメッセージ

利　用　者　編 …… 27
職　　員　　編 …… 27～33
保護者・家族編 …… 34～37

6. 資　　料

役　員　名　簿 …… 38
現 職 員 名 簿 …… 39

ごあいさつ

20周年記念誌発刊にあたって

社会福祉法人　萌葱の郷
理事長　五十嵐　康　郎

社会福祉法人　萌葱の郷「めぶき園」も創立20周年を迎えました。様々な困難を乗り越えて、今日を迎えることができましたのも長年にわたって温かくご支援いただきました多くの方々のお陰と心から感謝申し上げます。

自閉症児との出会いは、高校３年生の時にボランティアとして訪問した知的障害児の施設でした。東京オリンピックの年で、大人しく席に座っていないこと、黒板一杯に何匹もお魚の絵を書き連ねて、一匹一匹に細かく鱗が書かれていたことが大変印象的でした。

戦後の知的障害福祉のメッカとして知られていた滋賀県の一麦寮に寄宿し、田村一二先生から「この子らがいて自分たちがある」ことを教えられました。今振り返ると、一麦寮の利用者も大半が自閉症の方でした。

大学在学中に知的障害児施設づくりを思いたち、留年して「ひゅうまん運動」を創設し、学生や社会人など多くの人を巻き込みましたが、障害のある人も無い人も共に暮らせる共生社会を実現すべきだという考えに立ち至り、施設づくりを断念し、知的障害児施設「滝乃川学園」に就職しました。

滝乃川学園では重度棟で重い知的障害を伴う自閉症の子どもたちと出会い、ごくあたり前の生活の実現をめざして、生活見直しや地域の学校への就学などに取り組みました。自閉症の子どもが増え、自閉症療育という壁に突き当たっていた時に日本自閉症協会前会長であり、日本の自閉症療育の第一人者でもある石井哲夫先生の「受容的交流療法」に出会い大きな影響を受けました。学生時代に施設づくりを中途で投げ出す結果になったことと、自閉症療育を深めたいという思いから「自閉症専門施設を大分の地で開設しよう」ということが天啓のように閃きました。そしてバブル景気で自宅を高値で処分できたことで自己資金の目途がたったこともその計画を後押ししました。

大分福祉事務所の衛藤課長を介して、大分県障害福祉課の霜鳥課長と対面しました。霜鳥課長は厚生労働省からの出向で私とほぼ同年代で、学生時代に国立市に住んでいたことがあるという話しから、とても良い感触を得ました。霜鳥氏はその数日後に厚生労働省に戻られましたが、後年まみえる機会があり、たった１回の立ち話しだったにも関わらず、よく覚えていてくださり、厚生労働省に戻った後もずっと応援し続けてくれたことを知りました。

霜鳥課長の後は、小野課長が引き継ぎ、施設計画が徐々に具体化していきましたが、新名係長からは「自分は石橋を叩いても渡らないし、施設をつくりたいと言う人は山のように来ているが、五十嵐さんのように思いのある人に施設をつくってもらいたい」と随分肩入れしてくれ

ました。当時の担当の渡辺さんやその後を引き継いだ松田さんにも大変お世話になりました。松田さんの実家は犬飼町の無量寺という禅宗のお寺で、私が同じ地区に住むようになったことから、亡くなられたお父様やお母様には個人的にも随分親切にしていただきました。

小野課長は「福祉は現場が原点」という強い信念を持っておられて、生活福祉部長になられ、県社協の常務理事の要職を歴任されましたが、在職中も退職後も気軽に何度もめぶき園を尋ねてくださいました。

新名係長から自閉症の子どもを持つ親たちの協力を得るようにという助言があり、大分県自閉症児親の会の人たちとお会いしました。事務局の岡本さんは、本人いわく「石橋を叩きすぎて壊してしまいかねない」というほど慎重な方で「直感的に決めて、行動しながら考える」タイプの私とは正反対の性格にも関わらず、周囲の人の弁によると「人が変わったように私の話しに飛びつかれた」とお聞きしています。なかなか適当な施設建設用地が見つからなかった時に、岡本さんの口利きもあって、犬飼町の町有地を購入することができました。

農地転用申請に手間取ったことと、折からのバブル景気で建築工事が大幅に遅れ、開園は平成３年６月にずれ込みました。開設準備のために休日や年休を使って東京と大分を何度も往復しましたが、ついに無理がたたって高速道路上で心筋梗塞をおこしたことから滝乃川学園を退職し、大分に単身赴任をして開設準備にあたることにしました。

20 年の間に措置制度から支援費制度、そして障害者自立支援法とめまぐるしく制度は変わりましたが、早期療育の拠点として「こども発達支援センターなごみ園」、自閉症や発達障害の支援や普及啓発の拠点として「大分県発達障がい者支援センターＥＣＯＡＬ」、在宅支援の拠点として「ホームヘルプサービスセンターらすかる」、地域生活の拠点として「ケアホームかわしま」、就労支援の拠点として「どんこの里いぬかい」を開設し、一貫して自閉症総合援助センターを目指して取り組んでまいりました。

行動障害のために在宅生活が困難な方やアスペルガー障害の方への支援など今後も困難な課題に挑戦し、自閉圏障害の方々の「育ち」「暮らし」「仕事」を総合的に支援し、地域で安心して暮らせる共生社会実現をめざして取り組んでまいりたいと考えています。

今日までお寄せいただいた多くの方々のご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げまして、20 周年記念誌発刊のご挨拶といたします。

祝　　辞

祝　　辞

自由民主党障害者特別委員長
参議院議員　衛　藤　晟　一

社会福祉法人　萌葱の郷が創立20周年を迎えました事に、心よりお祝いを申し上げます。

過ぎさりし20年は、振り返ってみればいつも短いものですが、その途中においては幾多の困難が降りかかってきたことか想像に難くありません。

全てにおいて、『起す』ということには、莫大なエネルギーを要します。人材・物資・財政の３要素つまり人・物・金が揃わなければできることではありませんが、起案者の思いが一番大きなウェイトを占めると思っております。御多分にもれず、社会福祉法人　萌葱の郷においても創立に関して言えば相当な苦労があったやに聴いています。

創設者の五十嵐康郎氏は、ご本人からすれば直接関係のない大分に施設を創るという事は夢にも思わなかったと言っておりました。ましてや、大分県下において初めての自閉症児施設の建設となる事業です。

しかしながら、五十嵐氏は学生時代に知的障害児施設を造ろうとして「ひゅうまん運動」を立ち上げたものの結果として中途で投げ出す形となったことからその思いを果たそうとした強い思いがあった。また、勤務していた滝乃川学園（日本で最初にできた知的障害児施設）で重い知的障害を伴う自閉症児と出会い様々な体験をし、多くの事を学ぶことができ、その児童が全員卒園したことで自分なりに一区切りついたという理由があったことと併せ、義兄の家に立ち寄った際に土地の目途が立ちそうであったことなどから建設に向けた熱き思いが沸々とわいてきたのでしょう。

そこで、奥様を始めとしてご家族にご相談すると、思いもかけず皆様から賛成の意思表示があったそうです。『平生往生』と言いますが、毎日の仕事に臨む姿が、後ろ姿がご家族に十分に認識され評価されていた証であろうと思われます。

人の熱き思いは人を動かすと言いますが、思い立って施設建設に向かうと国・県の行政マンからの指導・支援が、後押しをしてくれたとのことです。つまり五十嵐氏の熱意が行政からも応援をとりつけることができたということだと思います。一人の熱い思いが、人・物・金を動かし創立に至ったことが良く分かります。

さて、平成２年９月に社会福祉法人萌葱の郷の設立認可を受け、翌３年６月に晴れて大分県下初の知的障害者更生施設『めぶき園』の完成を見ることとなりました。

その後の発展を振り返りますと、平成13年10月にこども発達支援センター「なごみ園」開設、平成17年２月に大分県発達障害者支援センター「イコール」開設、同６月にホームヘルプサービスセンター「らすかる」開設、平成22年１月『めぶき園』が障害者支援施設に移行、ケアホーム「かわしま」開設、同５月『めぶき園』が就労継続支援Ｂ型を開設、同５月就労支援施設「どんこの里いぬかい」開設という具合に次々と必要に迫られ必要な施設を拡充してきています。

私も、思い起こせば幼少のころより人より多くの障害者の方々と接してまいりました。亡父が傷痍軍人であり、その父が事務局のお世話をさせて頂いていたことから一緒に訪問したり、自宅に訪ねてきたりと言う事があったからだと思います。

そのころよく言われたことが『弱者と言われる人々にもっと光を』という事でした。幼き思いが私の政治への道へと駆り立てた一番大きな理由です。

私の政治信条は『ともに考え、共に行動する』です。障害者福祉に限らず福祉の基本は現場だと思います。良く『自助・共助・公序』と言われますが、現場の思いを聞き、少しでも弱者と言われる人々のお世話をさせて頂きたいと思います。

最後になりましたが、社会福祉法人『萌葱の郷』が今後益々ご発展致しますことと併せ、職員ならびに関係者皆様方のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げ祝辞と致します。

社会福祉法人萌葱の郷
創立20周年を祝して

豊後大野市
市長　橋本祐輔

このたび「社会福祉法人　萌葱の郷」が創立20周年を迎えられ、記念誌が発刊されましたことに対し心からお祝いを申し上げます。

貴法人におかれては平成２年に法人として認可を受けられて以来、自閉症を中心とする発達障がいのある人たちの豊かな育ちと暮らしを実現することを基本理念に、知的障害者更生施設設立から始まり、こどもデイサービスセンターやホームヘルプサービスセンター、ケアホームの開設など障がいのある人の地域生活を充実させるために着実に事業の拡充に努めてこられました。また、この間にも県委託事業である大分県発達障がい者支援センターも開設されております。

一言に20年と申しましても設立当初は障がい福祉に対する国民の意識もまだまだ乏しく、事業を立ち上げることは並大抵のことではなかったことと察せられます。また、ここ近年は国の障がい者施策は大きく変動し、特に「障害者自立支援法」が成立して以降、サービス利用者や事業者からは様々な反響があり、現在は同法の見直しが行われているところであり、今後の動向を十分注視していく必要があります。このように障がい者を取り巻く環境が大きく変動していく中にあって、新法への移行や障がいのある人に就労の場を広げるべく就労継続支援Ｂ型の開設等、障がい者本位の立場で献身的な取り組みを行っていただいていることに対し誠に心強く思います。

豊後大野市は今後も障がいのある、なしに関わらず、全ての市民がそれぞれの人格と個性を尊重し支え合いながら生活の質を高め、住み慣れた地域で自立した生活が送れるように利用者本位の福祉サービスを充実させ、地域生活や生きがいづくりを市民の皆様と一緒に進めていきたいと考えています。そんな中、福祉資源の少ない豊後大野市の障がい福祉への取り組みに多大なるご協力をいただいていますことに、ここに改めて感謝の意を表します。

貴法人におかれましては創立20周年を契機として、福祉活動の場をさらに広げられ障がいのある方の福祉向上のため、さらには豊後大野市の障がい者福祉の充実のために一層のご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、貴法人の今後益々のご発展と皆様方のご健勝・ご活躍をお祈りいたしまして祝辞といたします。

創立20周年を祝して

大分県福祉保健部
部　長　永　松　　悟

社会福祉法人萌葱の郷が創立20周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

また、大分県からの発達障がい者支援センターの受託運営をはじめ、平素より障がい福祉行政の推進にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、社会福祉法人萌葱の郷は、平成３年６月に県内で初めてとなる自閉症者施設「めぶき園」を開設されて以来、こどもデイサービスセンター「なごみ園」、ケアホーム「かわしま」、就労支援施設「どんこの里いぬかい」等を順次開設し、20年の長きにわたり、障がい者や家族に寄り添う支援に積極的に取り組まれてきました。

とりわけ、自閉症をはじめとした発達障がい者の支援につきましては、平成17年に開設した大分県発達障がい者支援センター「イコール」を中心として、発達障がい者支援専門員の養成研修や個別支援会議等への派遣、発達支援ファイルの作成等、数々の先駆的な事業を行っており、全国屈指の発達障がい支援機関として現在に至っております。

これもひとえに、五十嵐理事長や保護者会をはじめ関係者の皆様の発達障がい者支援に対する熱意とご尽力の賜であり、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

さて、現在わが国では、障がいのある方の権利と尊厳を保護・促進するための国際条約である「障害者の権利に関する条約」批准に向けた取組が進められています。また、様々な問題が指摘された障害者自立支援法は、昨年12月の一部改正により利用者負担の見直し等が図られるとともに、引き続き障がい者制度全般の改革に向けた議論が進められています。

大分県では、「県民とともに築く『安心・活力・発展』の大分県」の実現に向けて、互いに助け合い、支え合って、安心・安全を共有できるような地域づくりを進めています。特に、障がいのある方に対しては、地域生活を支える環境を整備し、生活や就労など自立に向けた支援への取組を積極的に推進しているところです。

また、発達障がい者支援につきましても、「イコール」を中心に、これまで以上に発達障がいの早期発見、早期支援に努めるとともに、教育や就労部門との連携を着実に進め、ライフステージを通じた発達障がい者の支援に取り組んでまいります。

貴法人におかれましても、創立20周年を契機として、これまでの経験を生かし、県内の障がい者福祉の向上により一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

併せて、社会福祉法人萌葱の郷の今後益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

萌葱の郷　創立20周年を祝う

日本自閉症協会
前会長　石　井　哲　夫

思えば、すばらしい20年の施設発展の道のりでした。五十嵐康郎さんが私たちの社会福祉法人嬉泉が運営する千葉県袖ヶ浦市にある袖ヶ浦のびろ学園に来られた時の事を思い出します。あの時の五十嵐さんは『自分が対応に悩んでいる重度の自閉症児に対して、有効な指導方法を知りたい』と考えて来られたようです。

そして、我々の話を聞いて、きっぱりと仕事の方向性を変えられ、五十嵐さんとのお付き合いが始まりました。その後、長年勤めた滝乃川学園を退職し、奥様が大分県出身というご縁から犬飼町にめぶき園を創設されました。その前から私は、大分県の自閉症親の会の方々から相談を受けていましたので、五十嵐さんを親の会の方々にご紹介しました。

その後、あっという間に犬飼町にめぶき園を建てられました。私もお邪魔したことがありますが、皆、安定しており、安らかな暮らしが営まれていることを感じました。

さらに、五十嵐さんは、ご子息の猛君を私どもの施設に研修に出されました。猛君が、発達障がい者支援センターを受け持つようになられ、親子二代にわたって自閉症への献身的な仕事がすすめられ、皆さんを元気づけていることと思います。我々も親子による施設運営をしておりますが、これが我が国の民間社会福祉事業の特性の一つでもあり、五十嵐さんにも、親子ならではの連携を生かして欲しいと思います。

嘗て、多くの自閉症児を育てる保護者は、「頼れる人がいない」と言うことから、自分たちで施設をつくったわけですが、なかなか人が集まらなかったり、受け手の支援者も得られないなど、大変な苦労がありました。施設経営は、本人や保護者、支援者が気持ちを共有することがとても大切なことです。私も社会福祉法人嬉泉の常務理事として、多くの施設を運営しています。我々が施設を運営する際に、子どもはもちろんのこと、施設内の人間関係を大切にしたり、子どもを施設に預けている保護者から信頼を受ける事は当然です。しかし、それ以外にも、子どもを施設に預けられない保護者や地域の方々とも疎遠にならないように、周囲からの相談を受ける機会を持ち、相互的な援助関係を築くことが望まれています。施設の良さというものを、地域や社会に還元しなければなりません。

私たちの夢は、障害があろうと無かろうと共に生きていける社会を目指すことであり、これは、障がい者総合福祉法を設立する作業過程で出された見解の端々にも書かれつつあることでもあります。しかし、未だに障害児への虐待、いじめ、就学、就労における障害者差別が続いていることから、『障害者の権利保障』『障害者への差別禁止』といった条約がつくられることが期待されつつあります。更に、その中では、何が権利か、何が差別かをはっきりさせていく社会的な理解を得ていくことも同時に必要とされてきています。五十嵐さんが会長である全国自閉症者施設協議会が提案している『自閉症総合援助センター』構想は、この見識を広めていくための柱ともなっていくことと期待しております。

また、五十嵐さんは今年の6月から日本自閉症協会の副会長も務められることにもなりました。そして、五十嵐さんの社会活動の母体はこのめぶき園です。どうぞ保護者、職員の皆様、一致団結して、日本の自閉症者施設の代表としてこの施設を活性化させ、多くの関係施設、それを運営する社会福祉法人を糾合して、自閉症者の『社会的自律や自立』を目指し前進していこうではありませんか。

「萌葱の郷」創立20周年の祝賀によせて

大分県自閉症協会
会長　平野　亙

創立20周年おめでとうございます。お祝いを申し上げますとともに、20年も前に「萌葱の郷」を立ち上げ、自閉症児・者のための専門的なケアの場を築き上げてきてくださった五十嵐理事長ならびに先達の保護者の皆様に、心からお礼を申し上げたいと思います。

ご存知の通り、今も自閉症児・者への制度的支援は十分ではありません。それでも、大分県には「萌葱の郷」があるから、私たち自閉症児の保護者は、困ったときに相談し、支援を受ける場を得ています。20年前といえば、自閉症は障がいとして社会的認知もされておらず、自閉症の成因にも親の責任という強い誤解があった頃ですから、先達となった保護者の皆さんのご苦労は、私たちの想像を超えるものであったと思われます。

幸い今日では、大分県自閉症協会は、大分県ならびに大分県教育委員会のご理解ご助力を得て、国連自閉症啓発デーの啓発行事をはじめ、自閉症児夏季療育キャンプなど、自閉症児・者のための取り組みを少しずつ展開することができていますが、これも2005年から県の委嘱を受けて「萌葱の郷」が設立した発達障がい者支援センターECOALがあってこその賜物と考えられます。五十嵐センター長はじめECOALのスタッフの皆様には、日頃から協会員の問題解決へのご支援のほか、定例開催される部会にご出席いただくなど、問題解決のための様々なご指導、ご助力をいただいております。日頃のご支援に、改めて心からの感謝を申し上げたいと思います。

さらに大分県では他県に先駆けて、発達障がい者支援専門員（スーパーバイザー）養成研修を実施しております。この養成研修はもともと、自閉症児・者にかかわっておられる各分野の専門職の皆様のスキルアップを通じて、大分県における自閉症児・者への支援の底上げ・改善を目指す県の事業として、発達障がい者支援センター連絡協議会が実施しているものですが、今では3年の研修を終えてスーパーバイザーと認定された方々が、福祉・教育・医療といった専門性の枠を超えたジェネラリストの視点をもつ専門家として、県内各地での啓発活動や事例検討を通じた問題解決のためにご活躍くださっています。

「萌葱の郷」は、自閉症児・者への質の高い直接的サービスにとどまらず、このように大分県に住むすべての自閉症児・者を支援するための中核的組織として、なくてはならない存在となっており、私たち自閉症児の保護者にとっては、心から安心して頼れる、ありがたい支援者なのです。そしてさらに、今後は就労支援や自立生活支援など成人自閉症者への支援がいっそう広く展開されていくことにも、大きな期待が寄せられています。

今後ますますご発展いただいて、大分県の自閉症児・者の幸せにご貢献くださいますようお願い申し上げます。そして、これまで本当にありがとうございました。

創 立 20 周 年

保 護 者 会
会 長　仲　間　克　之

法人創立20周年記念おめでとうございます。

開園当時23歳だった息子の秀行も43歳となり、心身共に落ち着いた状態になりました。これも一重に地域やボランティアの方々、行政や職員の方々の温かいサポートのおかげと、心より御礼申し上げます。

子どもも保護者も若かった現在に至る20年に比べ、今後の20年を考えてみますと、老化に伴う健康問題、個々のニーズにいかに対応するか、余暇をどのように楽しく個性を伸ばしていくか等、生活の場であるがゆえの問題です。

心豊かに生活するにあたって、住環境を整えるのも大事かと思いますが、喫茶兼休憩室と力いっぱい体を動かすための体育館の建設等、夢の実現をぜひ実行できたらと思います。

子ども達が季節の移ろいの中で楽しい行事をたくさん経験し、生き生きと生活できるように、親は職員と協力し努力していきますが、福祉行政や地域の方々、ボランティアの方々のより一層の御支援を切にお願い致します。

創 立 20 周 年

広域親の会
会 長　小　倉　美　紀

今年で創立20周年を迎えられ、おめでとうございます。

私自身、自閉症の17歳になる息子を持つ母です。沢山の方々にお世話になり、地域で暮らしております。その一つに、7歳から15歳まで児童デイサービスセンター「なごみ園」に通園していました。私達親子が住む朝地町から犬飼町まで40分かけ通っていました。幼児期は療育を受ける場所も遠く、児童デイサービスも無い時代でした。また、成人施設は当時は入所施設であり、児童は利用できない状況でした。

先輩お母さん方や行政の方々、五十嵐理事長のおかげで、児童デイサービスが出来ましたことをうれしく思っております。施設長をはじめ先生方に可愛がって頂き成長してきました。

今後も、地域で暮らす私達のように障がいがあっても楽しく安心して暮らせるように、これからも萌葱の郷の発展を心よりご祈念しております。

萌葱の郷の 20 年

沿　革

■ 平成２年９月
社会福祉法人萌葱の郷設立認可

■ 平成３年６月
知的障害者更生施設「めぶき園」開設

▲めぶき園

■ 平成 13 年 10 月
こどもデイサービスセンター
「なごみ園」開設

▲なごみ園

■ 平成 17 年２月
大分県発達障がい者支援センター
「イコール」開設

■ 平成 17 年６月
ホームヘルプサービスセンター
「らすかる」　開設

▲イコール

■ 平成 22 年１月
障害者支援施設「めぶき園」へ移行
（生活介護・施設入所支援）
ケアホーム「かわしま」開設

▲らすかる

■ 平成 22 年５月
障害者支援施設「めぶき園」
就労継続支援Ｂ型開設
就労支援施設「どんこの里いぬかい」開設
（従・就労継続支援Ｂ型）

▲かわしま

▲どんこの里いぬかい

思い出のアルバム

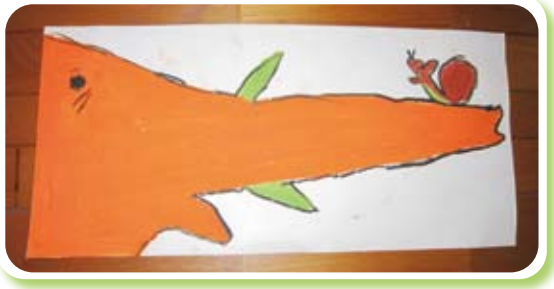
JUPITER
KIJIMA

岡蒜ファームランド

KIJIMA

パウステンボス

利用者作品集



～ 新聞記事でみる ～

「萌葱の郷の 20 年」

毎日新聞（夕刊）

理想の自閉症施設を！

私財投じ大分・犬飼町に

町も土地を無償提供

東京の元職員

（毎日新聞）

新聞（朝刊）　平成元年（1989年）7月16日　日曜日

県下初の自閉症者専門施設

夢の実現へ動き出す

東京の男性が資金面で協力

犬飼町も用地提供

（大分合同新聞）

大分合同新聞（朝刊）

平成 2 年（1990年）10月11日　木曜日

念願の自閉症児・者施設

犬飼町で起工式

（大分合同新聞）

「自閉症者の館」オープン

3年越しの願い実って

犬飼町の「めぶき園」

完成した「めぶき園」。入所も間近

（大分合同新聞）

～ 新聞記事でみる ～

「萌葱の郷の 20 年」

大きな声で選手後押し

交流のきずな見せる

○…「ガンバレ羽室台」。三塁側スタンドでは、自閉症者施設「めぶき園」（豊後大野市犬飼町）の利用者11人が訪れ、羽室台ナインと一緒に初戦を戦った。（写真1）

同施設では療育活動の一環でソフトボールを取り入れており、年数回の割合で、羽室台野球部と試合形式の交流を続けている。今夏も感謝の意を込め、早朝からスタンドに駆けつけた。同校OBでもある野上悦生支援員は「野球部の協力で助かっています。最後まで頑張ってほしいですね」と話していた。

1

（大分合同新聞）

大分合同新聞（朝刊）　平成3年

にぎわいました…精薄者更生施設「めぶき園」

初の文化祭に温かい支援

寄金やキネ、ウス寄付

地元の犬江おんな太鼓も〝熱演〟

【犬飼町】町内下津尾の十三日、園舎と園庭で開かれた。同園は今年六月にオープンしたばかり。園と地域住民とのコミュニケーションを目的に催した。

この日は、十八人の入園者の保護者会が生活用品などのバザー、カレーライスなどを販売した。

また、地元の女性太鼓チーム「犬江おんな太鼓」が特別出演で華麗な太鼓を披露した。

なお、モチつき大会を実施するに当たって、同園には道具のウスとキネがないため、大分合同新聞の「暮らしのアンテナ」を通じて協力を求めたところ、鶴見町の広田良一さんから2石ウス一個と木のキネ一本の寄付があった。

また、犬飼ライオンズクラブ（橋本尚武会長・二十六人）は、十一月十七日に催された同町ふるさと祭り会場で行ったチャリティーバザーの益金三万二千七百四十七円を「文化祭に役立てて欲しい」と同園に寄金した。（文化祭実行委員長の芦刈厚さん提供）

写真　地域住民も参加してにぎわうモチつき大会

うどん、おでん、ビール、ジュースなどの模擬店を行ったほか、大クイズ大会、入園者と園職員のピアノ演奏、合唱、バンド演奏、モチつき大会などがあった。

（大分合同新聞）

支援センターが入っているめぶき園地域交流ホーム（犬飼町）

話し合いをするスタッフ

自閉症などの発達障害

療育、就労アドバイス

支援センター開所

県内初、犬飼町に

県内で初めての自閉症・発達障害支援センター「イコール」（五十嵐猛センター長）が今月、犬飼町のめぶき園地域交流ホーム内に開所した。自閉症など発達障害の人を、療育や就労など、さまざまな方面から支援する。

センターは、自閉症専門施設の同園を運営する社会福祉法人「萌葱の郷」が、県の委託を受けて運営する。職員は相談、療育（二人）、就労相談の四人体制。年間運営費約二千五百万円は国と県の補助。

センターは、家族や学校、施設などから来所や訪問、電話で相談を受け、療育や就労に関する助言や情報提供をする。必要に応じて医学的診断や心理判定を実施。夜間など緊急時に一時保護が必要となった場合は、めぶき園で受け入れる。自閉症児（者）に対する理解を深めるため、パンフレットやチラシを作って配布したり、研修会も開く。

同法人は二〇〇二年度から県の事業として、自閉症などに関する相談や施設職員への研修などに取り組んできた。相談件数は増加しており、国庫補助事業として専門職員が配置されたことで、常時の対応が可能になった。

五十嵐センター長は「自閉症の人の支援には、周囲の人間関係が重要。

ポイント

発達障害　脳機能の障害が原因で起こる。自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などがある。▽言語能力が低く、コミュニケーションが取りにくい▽相手の気持ちを察するのが苦手▽手順などが強いこだわりがある▽鉛筆書き、計算といった特定の能力の使用と習得が難しいなどの症状がある。

対応に戸惑う身近な支援者に専門知識や情報を伝え、当事者が安心して過ごせる環境づくりに力を入れたいと話している。

センターへの問い合わせは☎0977・5866・8080。

（大分合同新聞）

～ 新聞記事でみる ～

「萌葱の郷の 20 年」

「将来、ソフトボールの試合をしよう」

社会貢献する機会に

羽室台高とめぶき園がソフトで交流

別府羽室台高校の野球部と犬飼町の自閉症者施設「めぶき園」のソフトボール交流会が二十二日、同校体育館であった。

野球部監督の大塚和彦教諭（三五）と、めぶき園の野上悦生指導員（三五）は、共に同校野球部OB。毎週、ソフトボールを活動に取り入れているめぶき園が交流先を探していることを知り、同校が引き受けた。

野球部員は前日、自閉症がどんな障害で、自閉症の人にどう接すればいいかを〝予習〟。キャッチボールでは、ペアを組んだ園生の能力に応じて球を軽く投げたり、転がしながらグラブの使い方を教えた。

大塚教諭は「大げさかもしれないが、野球を通じて社会貢献する機会ができたと思う」、野上指導員は「技術は少しずつだが上達している。将来、ソフトボールの試合をするのが目標」と話していた。

（大分合同新聞）

開店を前に接客の練習

豊後大野市犬飼町の国道10号沿いに、ドライブイン「どんこの郷いぬかい」が10日、オープンする。自閉症の人たちが働く就労支援施設として社会福祉法人「萌葱（もえぎ）の郷」（五十嵐康郎理事長）が運営する。「観光機能だけでなく、福祉の交流拠点にもしたい」としている。

自閉症の人が働く ドライブイン開店

10日、犬飼町

観光＋福祉の交流拠点に

食器などの片付けの練習も＝7日午後、豊後大野市犬飼町

「どんこの郷いぬかい」には、レストラン、地元の農産物や県内の福祉施設で製造した商品を販売する販売所がある。広さは約240平方㍍。専門相談員を配置し、自閉症に関する情報提供や相談も受け付ける。

障害のある10人が、厨房（ちゅうぼう）での食器洗いや片付け、店内の接客、外回りの清掃といった仕事を担当する。仕事のノウハウを身に付け、最終的には一般就労を目指すという。

萌葱の郷は、自閉症を専門とした県内唯一の施設として1990年に設立。91年に更生施設めぶき園、2001年にこどもデイサービスセンターなごみ園、05年に県自閉症・発達障害支援センターを開設し、幼児期から成人期までの生活支援を中心に取り組んできた。どんこの郷を新たに開き、就労までを含めた総合支援につなげたい考えだ。

五十嵐理事長は「自閉症は対人関係の持ちにくさなどの特徴から継続就労に結び付きにくかったが、適切なかかわりや支援があれば働ける。一人一人の可能性を広げたい」と話した。

問い合わせは、どんこの郷いぬかい（☎097・578・0077）へ。

（大分合同新聞）

施設紹介

障害者支援施設　めぶき園（法人本部）

〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾 4355 番地 10
TEL 097-578-0818 FAX 097-578-0819
E-mail：mebukien@moeginosato.net

《事業内容》

めぶき園では、障害者支援施設として作業活動を基本としながら、それと同時に余暇の活動を大切にし、利用者が生きがいや喜びを持って、めぶき園の生活が楽しく過ごせるよう、

・月曜日……リズム活動
（ハンドベル・太鼓・合奏・散歩）
・火曜日……グループ別療育活動
（ソフトボール・ストレッチ）
・水曜日……サークル活動
（ダンス・お菓子作り・散歩）
・木曜日……クラブ活動
（スポーツ・美術・音楽・散歩・日舞）

とそれぞれ午後の活動で取り組んでいます。

ハンドベル

ソフトボール

スポーツクラブ

登　山

ハンドベルは、地元の音楽祭などに多数出演し、清らかな音色と利用者の真剣な態度が好評を得ています。スポーツクラブは走ること中心に活動していますが、地元のマラソン大会に出場したり登山（久住山・大船）に行ったりしています。

ソフトボールでは大分県立別府羽室台高等学校野球部と交流会を行い、変則ルールでの試合が実現しました。美術クラブは、年に数回、作品展を開催し、自閉症独特の感性を発揮した絵が好評です。日舞の発表会、夜の余暇活動で取り組んでいた詩吟の発表会への参加などこういったイベントに参加する機会も年々増え、そんな時の利用者の顔はとても活き活きとしています。

より家庭的な雰囲気を心がけ、今では当たり前ですが開設当初より毎日の入浴、食事の際は陶器の食器を使用、服装についてはTPOを大切に、職員も同様にジャージはNG（中には好んでジャージを着ている人もいますが、それは本人の好みなのでOK）としています。

保護者と協力し、可能な範囲での週末帰宅を実施しています。月～金までめぶき園での仕事・活動をがんばる。週末は自宅で家族と楽しく過ごす。このメリハリも生活の中でとても大切な事だと取り組んでいます。

また、 一日の流れは、時間にゆとりを持たせ、利用者が見通しを持ちやすく「無理に」ではなく、本人のペースを大切にしながらその中で折り合い（集団生活の中での個人）をつけて過ごせるよう、配慮しています。

めぶき園の基本理念である、安心感に基づいた信頼関係を大切にしながら、自閉症者が生き生きと生活できる場所を提供して行きます。

太　鼓

合　奏

手工芸（さをり織り）

美術クラブ

めぶき園利用者による
絵画展を開催しました。

就労支援施設 どんこの里いぬかい

〒879-7302 大分県豊後大野市犬飼町久原 1863 番地 8
TEL 097-586-0077 FAX 097-586-1226
E-mail：donko@moeginosato.net

《事業内容》

◆沿革

・平成 22 年 5 月 10 日
　レストランどんこの里いぬかいをオープン
・平成 22 年 10 月 30 日
　直売所どんこの里いぬかいをオープン
・平成 23 年 7 月
　どんこの里いぬかいが大分県指定「里の駅」として認可
・平成 23 年 8 月
　弁当業務スタート

開所当時は２名の利用者と共にスタートしたどんこの里いぬかいも現在では８名の利用者が通って様々な業務に分かれて作業を行っています。

◆作業内容

＜A班　レストラン業務＞

○レストラン内での接客と厨房内を主な業務とする
・フロア内の接客
・お膳の配膳・下膳、テーブル拭き
・厨房内での洗物、食器の片付け
・盛り付け補助

＜B班　物販所業務＞

○物販所内でのレジ補助を主な業務とする
・物品の品だしや補充
・レジでの袋つめ
・接客

＜C班　清掃業務＞

○敷地内のトイレ、駐車場の環境整備を主な業務とする
・トイレ清掃
・駐車場の環境整備
・地域清掃
・豊後大野市からの委託清掃

＜D 班　農作業業務＞

○畑での野菜の生産を主な業務とする
- ・種まき・苗植え・収穫・草取り
- ・畝つくり
- ・販売準備

＜E 班　弁当業務＞

○お弁当の盛り付けを主な業務とする
- ・弁当の盛り付け
- ・容器、はし、おしぼり等の準備
- ・配達

豊後大野市　就労支援施設「どんこの里いぬかい」

「得意分野を活かして一般就労へのステップアップの場を作りたい。」夢と希望がたくさん詰まったドライブイン「どんこの里いぬかい」が5月にオープンしました。それぞれの得意分野を活かし日々励んでいる6名の利用者たちは、厨房での食器洗いや片付け、店内の接客、店内外の清掃といった仕事を担当。仕事のノウハウを身に付け、最終的には一般就労を目指しています。オススメ人気メニューは5種類の和食が楽しめる「ECO膳(550円)」。ヘルシー&優しい味が女性に受けています。他にも敷地内にある「どんこ公衆トイレ」の清掃・管理、ハガキ、陶器、エコバッグの作成等も行っています。「今夏には地元の農産物の販売がスタートする予定。ネームバリューを高め、他にはない新しいスタイルの交流拠点になればと思っています。利用者のため、地域のために頑張っていきたいですね。」と就労支援課長の佐藤任孝さん。取材時にはお昼時とあって、多くのお客様が来店。多少戸惑いながらも、工夫しながら来客対応をする利用者の姿がありました。

←配膳をする利用者。練習の成果を発揮！
↓国道10号線沿い犬飼大橋近く。大きな看板が目印です。営業時間11～15時。水曜定休。

←一番人気の「ECO膳」。優しい味が詰まっています。↓店内にはどんぶりや湯のみ等手作り商品も並べられています。

観光と福祉の交流拠点として…。
「イキイキ」と「愛情」が
ギッシリ詰まった美味しい料理を！

←敷地内の「どんこ公衆トイレ」を清掃する利用者。→開放感溢れる店内。利用者が明るい笑顔で活躍しています。

就労支援課長の佐藤任孝さん

施設概要
- ■施設名…社会福祉法人「萌葱の郷」
  就労支援施設「どんこの里いぬかい」
- ■所在地…豊後大野市犬飼町久原1863番地の8
- ■電話番号…097-578-0077
- ■創立…1990年4月　■定員…就労継続支援B型20名

＜ひまわりクラブ掲載（朝日新聞折込）＞

ケアホーム かわしま

〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾 3709 番地 8
TEL 097-578-0885

《事業内容》

ケアホームかわしまは、平成 22 年の 1 月の新体系移行に伴い、法人として初めてのケアホームとしてスタートしました。地域での共生、社会参加ができるように支援し、地域での自立生活を目標としています。施設での生活と違い自分の時間を長く持てるようになり、家庭的な雰囲気の中で個別的なケアを提供し、余暇を充実させて快適な生活の場となることを目指しています。

＜一日の流れ＞

7:00	8:00	9:00		15:30	16:00	18:00	19:00		22:00
起床・清掃	朝食・準備	仕事	活動	帰宅・おやつ	入浴・洗濯	夕食	余暇時間		就寝

一番の楽しみの食事は専属の世話人が作った物を食堂で皆で一緒に食べます。施設ではできない家庭的な料理ができるのも特徴で、利用者はとても喜んでいます。夜間の余暇は、毎月の夕食レク、買い物レク、調理実習は非常に楽しみな行事となっており、その他、夜のおやつやコーヒータイム、日記をつけたり、自宅へ電話したりと各自が思い思いの余暇時間を過ごしています。

行事としては、天神地区の秋季大祭という地域の大きなお祭りにも利用者、職員で参加させてもらい、地域住民の方々と力を合わせて山車を押したりして、非常によい交流の機会となっています。今年度の 7 月には地区の小学校と中学校の子ども会、祭り青年の方々と協力し、夏祭りを催しました。地区の小中学生やその保護者がたくさん参加してくれて、利用者や職員と一緒になって飲んだり食べたり、ゲームやカラオケ、スイカ割りなどを楽しみました。こうした行事は地域の方々にケアホーム、利用者を知ってもらうのに非常に意義があるものとなりました。

ホームヘルプサービスセンター らすかる

〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾 4355 番地 10
TEL 097-578-1888 FAX 097-578-0819
E-mail:rasukaru@moeginosato.net

《事業内容》

ホームヘルプサービスセンターらすかるは、平成 17 年 6 月に開設されました。障がいをもつ人々の自立と社会参加の促進を目指し、その人がその人らしく、より豊かに安心して生活を送ることができるよう支援を心がけ、日常生活を営む際に支援を必要とする障がい児・者の家庭などにヘルパーを派遣して居宅介護の支援を提供してきました。

主なサービス内容としては①身体介護（入浴、食事、排泄、衣服の着脱などの介護）、②家事援助（調理、洗濯、掃除などご本人に必要な家事全般）、③行動援護（行動が困難で常に介助が必要な人に、行動する時に危険を回避するために必要な介助や外出時の移動の補助）、④移動支援（外出時における移動の介護）です。利用者の気持ちに寄り添いながら、利用者とともに楽しく余暇時間を過ごしたり、買い物や外食をしたりして有意義な経験につながるように努めています。

平成 18 年の障害者自立支援法で、地域社会に参加する外出介護（行動援護）が新たに整備され、らすかるでも年々行動援護のサービスを利用する利用者が増えてきました。

今後も利用者や保護者のニーズに応じて、地域で安心して暮らせるように在宅福祉を支援していきたいと思います。

好きなおやつを自分で買い物します！

風が気持ちいい土手を散歩中！
みんなでハイ、チーズ！

遊具は、みんな大好き！

電車に乗って外出もします。

こども発達支援センター なごみ園

〒879-7304 大分県豊後大野市犬飼町大寒 2149 番地 1
TEL 097-586-8070 FAX 097-586-8071
E-mail：nagomi@moeginosato.net

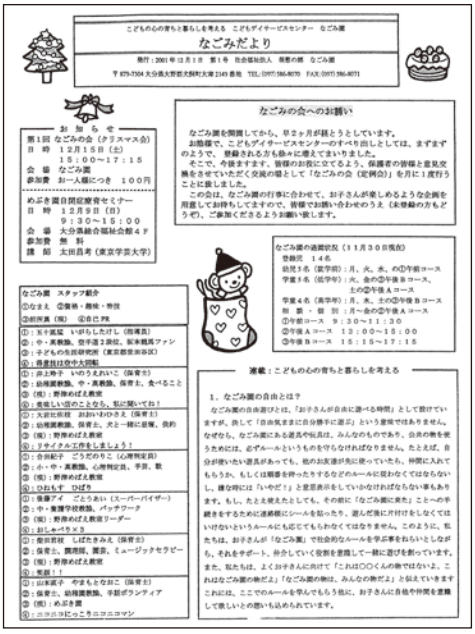
《事業内容》

平成 13 年 10 月に、犬飼町に児童デイサービス「なごみ園」を開所しました。

当初は、措置契約であることから、大野郡の 7 カ町村の障がい児しか通所が認められませんでしたが、自閉症療育の経験者と野津めばえ教室のベテランスタッフによる質の高い療育が行われたことにより、佐伯市や臼杵市、大分市、別府市、玖珠町などからの利用者も増え続け、平成 15 年度から始まった支援費制度の時には、定員を大幅に超える利用にまで至りました。

また、県から自閉症に関する相談を専門に受ける「自閉症ライフサポート事業」が委託されたことにより、幼稚園や保育園、学校といった関係機関を訪問して相談を受けられるようになりました。

開設当初、エイトピアおおのホールにて「障害児（者）の健康と地域療育を考える集い」にて、なごみ園を紹介するポスターやこどもたちの作品を展示しました。



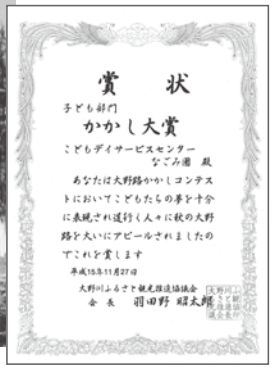
なごみだより

なごみの会へのお誘い

なごみ園の近況状況（11月30日現在）

なごみ園の心の育ちと暮らしを考える

なごみ園の療育活動をお知らせしている「なごみだより」の第1号です。



みんなで協力して作ったネコバスが豊後大野市かかし大賞に選ばれました。

教材で使っている五十嵐猛考案の「イコールカード」が任天堂DSソフトになりました。

保護者や大学生ボランティア、地域の方々との交流を目的に「なごみの会」をいろいろな形で開催してきました。

「なごみ園秋祭り」特設ステージの上でパフォーマンスを繰り広げました。

「クリスマス会」には、毎年いろいろなゲストが参加してくれました。

こどもたちのがんばりをたたえる「がんばり賞」も毎年欠かさず開催しています。

「おもちつき大会」は、地域の方々と触れ合える大切な機会となっています。

「ひなまつり」では、いつもボランティアさんに大活躍していただきました。

兄弟だけで一泊旅行する「兄弟の会」も恒例行事となりました。

大分トリニータの森島選手を迎えて、地域の子どもたちとサッカーをしました。

仲間と川や山にお出かけすることも少なくありません。

大分県発達障がい者支援センター ECOAL（イコール）

〒879-7302 大分県豊後大野市犬飼町久原 1863 番地 8
TEL 097-586-8080 FAX 097-586-8181
E-mail:ecoal@moeginosato.net

《事業内容》

平成 14 年度より、大分県からの委託により自閉症ライフサポートセンターとして準備期間をいただき、平成 17 年 4 月より発達障害者支援法の施行に伴い、「大分県自閉症・発達障がい者支援センター ECOAL」として正式に大分県の発達障がいに関する専門機関として開所しました。

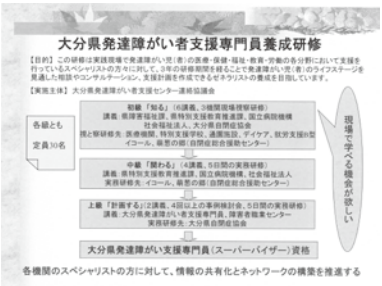
平成 17 年4月　開所

めぶき園利用者の矢野哲也さんの作品が「つながりのある支援体制を構築する」といったイコールの理念を表現していることから、シンボルマークに登用しました。

大分県内の発達障がいに関する支援情報を冊子にまとめて配布しました。（平成 20 年度には、大分大学教育福祉科学部の研究事業により URL 化されました）

平成１８年度

センター名を大分県発達障がい者支援センターに改めました。



大分県内の支援ネットワークの推進を目指し、医療・保健・教育・福祉・労働・行政・保護者会が連携する大分県発達障がい者支援専門員養成研修の初級をスタートしました。

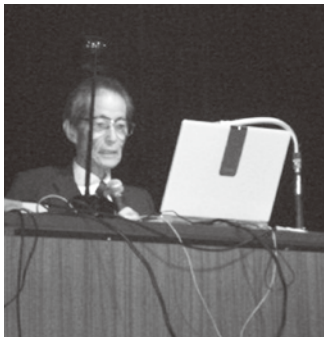
平成１９年度

大分県発達障がい者支援体制整備基本方針の策定に協力しました。

自閉症支援に関するノウハウの蓄積をマニュアル化し、配布しました。

平成 20 年度

発達障がい者の就労支援に向けたネットワークづくりの推進を目指し、就労支援者育成事業を運営しました。



平成 21 年度

大分県自閉症啓発デーの中で大分県発達障がい者支援専門員認定式（第１期生）が行われ、大分県発達障がい者支援専門員を派遣する大分県発達障がい者支援専門員派遣事業がスタートしました。

HP を一新し、大分県発達障がい者支援専門員の名簿や発達支援ファイルなどをダウンロードできるようにしました。

平成 22 年度

厚生労働省保健福祉部障害福祉課中島課長が萌葱の郷に来訪され、大分県発達障がい者支援専門員養成研修を視察されました。

発達障がい者支援センター九州ブロック大会を大分市で開催しました。

平成 23 年度

発達障がい者支援センター全国連絡協議会総会・実務者研修会を大分県にて開催し、情報交換につとめました。

平成 23 年 8 月より、大分県里の駅「どんこの里いぬかい」にある大分県発達障がい情報センターに事務所を移転しました。

＜ECOAL 講演会　歴代講師＞

平成 17 年度	第１回記念講演会	石井哲夫氏（日本自閉症協会前会長）
	第２回講演会	山本譲二氏（元衆議院議員）
平成 18 年度	第３回講演会	山崎晃資氏（日本自閉症協会会長）
	第４回講演会	西村章次氏（白梅学園大学教授）
平成 19 年度	第５回講演会	田中康雄氏（北海道大学大学院附属子ども発達臨床研究センター教授）
	第６回講演会	十一元三氏（京都大学医学部人間健康科学科教授）
平成 20 年度	第７回講演会	須田初枝氏（日本自閉症協会前副会長）
平成 21 年度	第８回講演会	藤野　博氏（東京学芸大学教育学部特別支援科学講座教授）
平成 22 年度	第９回講演会	中邑賢龍氏（東京大学先端科学技術研究センター教授）

メッセージ

利用者編

★めぶき園の20年を振り返る

西　原　義　朗

私がめぶき園に来たのは、20年前になります。その時はまだ状態が落ちつかず、いらない話をしたり、他人に迷惑をかけてばかりでおこられっぱなしでした。職員さんに注意された後に再び同じことで注意されてしまいました。自分が気に入らないと他害をしてしまうなど、問題行動ばかりしていました。

職場実習に行っても、仕事に関係ない話をしたり、注意された時に腹を立てておこるなど、トラブル続きですぐやめてしまいました。施設内でしばらく活動していました。昨年からどんこの里いぬかいで働いていますが、最初はうまくいかないでいつも職員さんに迷惑をかけてばかりでした。これからもこの仕事を出来るだけ続けられるようにがんばろうと思います。

職　員　編

★事務長　　原　田　竜　二

めぶき園が記念すべき20周年を迎えるにあたり、私はその半分程度しか一緒に過ごしてないため、利用者一人ひとりの歴史やめぶき園の歴史が詰まった最初の10年間を知りません。そこで私は、入職してからの想いを綴りたいと思います。

私の前職は身体障害者通所授産施設の職員でした。当時の視察研修は週末に行っていたために、通所施設は見学することができず、九州各地の入所更生施設を視察研修していました。法人より採用内定通知を頂いてから入職するまでの間、めぶき園は私が想い描いていた入所更生施設とは全く違っていて驚いたことを覚えています。それは、めぶき園で最初に理事長から注意するよう言われたことが、利用者を「さん」付けでお互いを呼び合うことです。当時の他の施設では、利用者のことを「ちゃん」付けで呼び、職員のことを「先生」と呼んでいたような気がします。また、めぶき園は知的障害者入所更生施設でありながら、生産活動・療育活動・クラブ活動・夕食後の余暇活動等の活動の多さに驚いたことも鮮明に覚えています。利用者が居室で一日中過ごすことがないようにと、改めて理事長の利用者に対する気配りが伝わってきました。職員配置基準を大幅に超える職員を抱えてまでも、利用者に対する療育と支援は惜しみなく提供するという理念は全国でもトップレベルのものだと確信しています。

めぶき園は、平成22年1月より新体系に移行し、障害者支援施設めぶき園として再スタートしました。理事長が創立以来、利用者の真の幸せを願って続けてこられた療育や支援が、正に実を結んだ瞬間だと新体系に移行して確信しています。

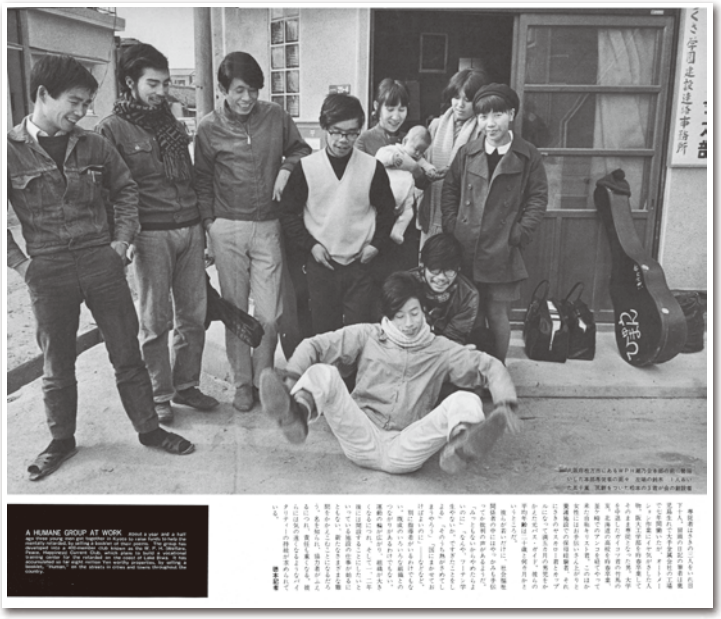
今後も理事長を中心として、これまでめぶき園が刻んできた歴史の上に、新たなページを利用者や職員とともに刻んでいこうと思います。

★センター長　　五十嵐　猛

「自閉症者にとって最高の居場所づくりをしたい」、という夢を追い、22 年前に理事長（五十嵐康郎理事長）が家財を売り払って単身で大分に向かった日を思い出します。その時、私はまだ大学生だったのですが、私も理事長の夢が形になる姿を一目見たいとの思いで、長期休暇にめぶき園の建築工事の手伝いをさせていただいたり、開園後にも施設内でボランティアをさせていただいたりしました。そうした中、私自身も少しずつ自閉症療育に魅力を持ち始め、大学卒業後、自閉症療育の第一人者である石井哲夫先生のもとで学ぶことを望み、社会福祉法人嬉泉「こどもの生活研究所」に就職させていただくことで、職場や日本自閉症協会を通して多くの方々から様々な教えをいただきました。その時の経験が、今日の療育基盤にもなっています。

そして、ちょうど 10 年前となる 2001 年に萌葱の郷なごみ園に転職し、私もなごみ園も今年で 10 年目を迎えたところです。そうした折り、理事長の書斎から昭和 45 年 1 月 16 日に発行された「アサヒグラフ」の 1 冊中に非常に興味深い 2 つの記事を発見しました。その 2 つの記事とは、理事長が学生時代に活動していた「ひゅうまん運動」と「自閉症児親の会」の記事です。しかも驚いたことに、当時、「自閉症児親の会」の事務局がこどもの生活研究所内にあったことを初めて知りました。まるで、この本が今の自分の人生を予言していたかのように身につまされ、自分が、これまで自閉症療育や支援について学ぶ機会に恵まれてきたことを感謝するとともに、自閉症者に対する興味や関心から、「自閉症者にとって最高となる居場所づくりを施設から地域へと広げていくこと」へと使命感に変わってきたことを実感しているところです。

最後に、今や自閉症は発達障がいという大きな枠組みの中で急速に理解が広がりつつありますが、先哲や親の会が 40 年間なされてきた数々の取り組みを引き継ぎ、10 年 20 年後に向けて発展させていくことを萌葱の郷 20 周年を迎えた私の決意とさせていただきます。



24 歳の理事長（左から３人目）と０歳の私

自閉症児親の会・総務

森　晶子さん（41）

東京都世田谷区船橋町110

こども生活研究所内

自閉症児親の会（こどもの生活研究所内）

（アサヒグラフ　昭和 45 年 1 月 16 日発行）

★支援課長　　福　田　和　彦

私が萌葱の郷に入社してから、今年で16年目になります。当時は、法人の事業所はめぶき園だけでしたが、徐々に事業が拡大され、今では自閉症児・者のライフステージにわたって支援する体制（自閉症総合援助センター）が整ってきました。また、福祉制度も措置制度から契約制度、障害者自立支援法と目まぐるしく変化をしていき、今まさに激動の時代を迎えています。

20周年を迎えるにあたって振り返ってみると、利用者といろいろな活動や体験を共にする中で、自閉症療育（支援）にとって何が大事かが、少し分かってきたよう気がします。それは、側にいる“人”が大事であるということです。自閉症の方は、コミュニケーションが苦手な面がありますので、どのように接すればよいのか最初は悩みました。しかし、この人はどんな言動をするのか、これからこの人とどんなことをするのかと、不安に感じているのは、自閉症の方の方です。そのため、安心を感じていただくように、その人のいいところ（強み）を見て、共感したり感謝したりして、支援する側がセルフコントロールして接することが大事だと考えます。側にいる“人”を頼りにしているのです。

平成18年からは、居宅介護事業のホームヘルプサービスセンターらすかるに異動し、成人から主に児童の支援に移行しました。在宅福祉（特に外出介護）を支援する中で、更に“人”の影響は大きいということを感じました。例えば初めて行く場所が苦手な利用者でも、支援者との関係性ができているとスムーズに行けてしまうのです。

今後も、人と人との触れ合いを大事にしながら、自閉症の方々と共に成長し、充実した豊かな人生のサポートができる“人”になれるよう努力していきたいと思います。

最後に、この20年間、法人の運営に多大なご尽力をいただきました保護者の皆さま、並びに各関係機関の方々に深く感謝いたします。

★支援課長　　近　藤　暢　秀

私がめぶき園に来てから早くも十六年が経ちました。当時二十代だった利用者も四十代になっており時の流れを感じます。学生時代から知っている利用者は二十年以上のつきあいになります。個性豊かな利用者たちと出会い、一日一日の積み重ねの中で少しずつ成長していることを感じ、それはまた自分自身の成長でもありました。日々、試行錯誤しながらやり取りを積み重ねて、何年経ってもわからないことも多いですが、共に笑ったり泣いたりしながら、少しずつお互いが相手のことを受け入れて関係を築いてきました。彼らは自分自身を映し出しています。その時、一瞬一瞬の対応は、個々の判断に委ねられます。それ故に私たちは常にいろいろなことにアンテナをはりめぐらせて自分自身を磨き、自分をコントロールしていく必要があると学んできました。

私が働きだしてからの福祉の流れは激動の時期を迎え、措置制度から支援費制度、さらに障害者自立支援法、来年にはまた名前が変わるという常にその動向を把握しておかなくてはならない状況にありました。そんな中でめぶき園からスタートした小さな法人はこの二十年の間に事業所を増やし、自閉症の方をトータル的にサポートする自閉症総合援助センターとしての役割を果たすまでになりました。大きな流れとして、障がいを持つ人も地域で共に暮らすことを目指すということがあります。私が担当するケアホームかわしまは、法人として初めてのケアホームで、利用者がいかに地域に溶け込み、社会参加できるようになるかを考えながら支援しています。ケアホームのある天神地区の秋季大祭や、今年度開催した夏祭りは非常によい交流

の場となり、利用者をアピールするよい機会となったと思います。今後の私たちの大事な役割として、地域の方にいかに利用者を理解してもらうか、ということがあります。利用者がどこにいても、気軽に声をかけてもらえる、困っていたら助けてもらえる、そんな地域社会になっていけば、と思います。

最後に二十周年を迎えるまでご尽力頂きました保護者、関係諸機関の方々に深く感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

★支援課長　　野　上　悦　生

私がめぶき園に勤め始めた15年前は、利用者30名、職員は10名という小規模な施設でした。利用者は、問題行動や自傷・他害行為が激しく、毎日がその対応に追われ、休憩も取れずに1日が終わってしまう、という日々が続いていたのを思い出します。利用者にとって家庭に代わる生活の場として、どうすれば問題行動が改善されるのかと自問自答する毎日でした。国の制度も措置から支援費制度へ、そして障害者自立支援法へとここ10年程の間にめまぐるしく変わり、めぶき園も平成22年1月に新体系に移行し、移行に伴い、新しい利用者も増えました。しかし、どんなに制度や利用者が変わっても、めぶき園の日々の取り組みや支援の理念を変えずに継続して取り組んで来たことが、利用者の行動障がいの減少として表れ、より良い生活環境へ・より良い関係作りへ、と利用者・職員ともに成長し続けてきた20年であったと感じています。

20年前は、めぶき園だけでしたが、今では事業所も6事業所となり、法人の規模が拡大し、職員の人数も10名程から70名近くに増えています。イコールの発達障がい者支援専門員養成研修の事業では、めぶき園での現場実習を必須とし3日間、毎年受け入れていますが、実習機関として恥ずかしくないよう今後とも県内唯一の自閉症専門施設としてのクオリティを保っていく努力をし続けたいと思います。

最後に、保護者の方々や関係機関のご協力のおかげで、無事に20周年を迎えることが出来ました。めぶき園は、開園当初より、保護者の方々と協力して療育に取り組んできました。これからも「家族のような温かみのある場所」であるように職員一同取り組んで行きます。今まで以上に、めぶき園・法人事業にご協力の程宜しくお願いいたします。

★支援課長　　佐　藤　任　孝

萌葱の郷めぶき園が設立されて20年の節目を迎える。私がこの法人にお世話になり、15年目を迎える。めぶき園での7年間は自閉症の成人の方と関わることが初めてだった私にとって刺激を受ける毎日であった。毎日の仕事後には、同僚や先輩方と支援の仕方についてレクチャーを受け、人に関わる仕事であることの難しさを痛感させられた。先輩方からは対応した利用者に責任をもち最後まで対応することで、利用者との関係を築いていけるのだということを教示された。私自身、誰かの真似をするのではなく、自分自身のアプローチの仕方を考え利用者と接することで関係を築くことができ、初めてこの仕事の楽しさが分かってきたように思う。言葉での意思表示が難しい人に対して、どのようなアプローチをすればより良いコミュニケーションが図れるのか、どうすれば利用者が落ち着いて生活をすることができるのかを考えた7年間だった。その後、私は法人内での異動をきっかけに自閉症のみではなく、発達障害の視野で利用者と接することを学んだ。高機能広汎性発達障害やアスペルガー症候群の人たちは言葉

での意思表示は可能であるが、どの利用者もいじめや生きづらさを感じていた。このような方と接する上でも、原点はめぶき園で働いて、利用者の思いを探求することを学んだことが生かされたように感じる。

そして今あらためて思うことは、一人の人間として恥じない関わりを利用者にすることである。自分が傲慢になっていないか、謙虚に対応できているのか、常に念頭において今後も支援にあたっていきたいと考えています。

★係長　　秋　月　正　博

私がなごみ園に勤務し、6年の年月が経ちました。大学卒業後すぐに勤めたのですが、勤務した当初のなごみ園での療育風景は「不思議」の連続でした。療育機関という言葉から想像する私のイメージは、何か小難しい機械が並び、見たことや聞いたことがない訓練を行うものだと思っていました。しかし、なごみ園で行う療育は野球をしたり、トランポリンを一緒に跳んだりといった職員の私自身もつい時間を忘れて楽しんでしまうような活動が多かったのです。そして月日が流れ、子ども達の変化を見ると、形を重んじる訓練よりも、そういった「共感体験」が子どもの成長にとって最も大切だということに気付きました。「共感体験」を積み重ねることで、集団活動への参加意欲や人への思いやりといった心の動きが、自発的に芽生えることが分かったのです。これからも、子ども達と笑い合える時間を一番に大事にしながら、「才能支援」や「発達支援」を行っていきたいと思います。

★主任栄養士　　廣　瀬　美　恵

早いもので20年、色々なことが走馬灯のように思い出されます。開園当初の利用者は、献立の中で限られたものしか食べず（例えばフライ、唐揚げなど）、残菜の多かったことなど思い出します。入所から4年～5年ぐらい経つ頃に、色々なものを食べるようになり、残菜がほとんどなくなってきました。また保護者の方から、帰宅中に今までお家で食べなかったのに、「切干の煮付けを食べたい」と言ってきて驚かされた話、食べなかった食材などを食べれるようになり、食べれるバリエーションなどが増えたと言ってくれたことなどを思い出されます。

また、色々な行事（運動会、海水浴、ゆうあいスポーツ大会、キャンプ、クリスマス会、忘年会、新年会、園遊会）を思い出します。行事の時などに、保護者の想いなども聞かせてもらい、食事作りの参考にして頑張ってきました。これから園が益々発展していくことをお祈り致します。

★主任看護師　　首　藤　千鶴代

めぶき園に勤め始めた頃、後ろ髪を引かれる思いで保育園に預けた娘も今は高校生…。めぶき園の看護師として15年間という歳月があっという間に流れました。

15年前と現在の利用者の様子を比べると、本当に利用者の皆さんの成長に驚くばかりです。採血ひとつを語るにしても、数人の支援員でベットに寝かせ、身体を押さえて採血をしていたことが走馬灯のように思い浮かばれます。また、歯科受診も藤内先生のお力添えで一部の利用者を除いては、現在は抵抗なくスムーズに歯科受診ができるようになっています。

しかしながら、めぶき園の日常生活の中で、自分自身の身体の不調を正確に訴えることので

きない利用者がまだ殆どです。そのため入浴時を中心として身体チェックを確実に行い、怪我をしていないか、湿疹はないかなど、日頃から支援員が利用者の体調を常に把握し、疾病に対する正確な知識と観察力を養いながら健康維持管理に心がけ、安全で楽しい日常生活を過ごせるように願っています。

★主任支援員　　木　下　祐　市

開設20周年を迎え、私も勤続16年目となる。月日の早さに驚かされ、少々目まいがするが、これまでを振り返るつもりで筆を執った。正直に書くと、さてと簡単には言葉にできない。胸の奥にたくさんの思い出が次々と浮かびあがり、メリーゴーランドのように回り続けている。喜んだ顔、泣いた顔、面白くない顔、弾ける笑顔、あんたなんか大嫌いの顔、その全部が利用者たちの顔だ。思い出す度に頬がゆるみ、尚更、思いを馳せてしまう。

15年分の思い出は語り尽くせないが、私にとってかけがえのない宝物だと感じている。長い年月を共に過ごすことができて本当に良かった。

有り体に言えば、利用者のおかげで私自身が育てられてきたと思っている。私自身の支援方法も、利用者との関わりの中から生まれたものばかりだ。未熟だった私の失敗を通して、利用者から『ちがうなぁ。そうじゃないよ。』と教えられ、学んできた。これからの10年、20年も末永く、どうぞよろしく。

★主任支援員　　丹　生　朱　美

自閉症という障害があることすらも知らなかった私が、ご縁があってめぶき園で働かせてもらうことになり、7年が過ぎました。うまくいかないことばかりで（今でもそうですが…）何度も投げ出したくなることがありましたが、利用者の方や保護者の方をはじめ、周りの方々に助けていただいて、何とか今日でもここで頑張ることができています。とても長い時間に感じていましたが、今回めぶき園が開園20周年を迎えることを考えると、3分の1にも満たない短い時間なのだと思いました。

これからもめぶき園は時を重ねるごとに成長し、新たな歴史を作っていくことでしょう。その勢いに負けないように私も成長し、ともに歩んでいくことができたらと思います。

★主任相談員　　田　中　秀　征

社会福祉法人萌葱の郷設立20周年おめでとうございます。

近年、ようやく発達障がいという障がいが社会的にも認知されてきましたが、開設当初は発達障がいという言葉自体もよく知られていない時代であり、そのような中で自閉症者の専門の施設を作ろうと考えられた五十嵐康郎理事長の先進的な試みと、それを支えて共に立ち上げられた保護者の方々の熱意は大変すばらしいものであり、その一端で働けることを大変喜ばしく思っています。

私は現在発達障がい者支援センターにおいて発達障がい児・者の相談や支援を行っていますが、日々自閉症の奥の深さ、発達障がいの幅の広さ、それに対応する専門性の向上の必要性を感じています。これからも、発達障がい児・者が楽しく、充実した日々を送れるように、日々精進していき、法人の新しい20年を共に歩みたいと思っています。

★主任相談員　　姫　野　康　成

私が萌葱の郷でお世話になり７年目を迎えます。初めてめぶき園に出社した時は、利用者の言動に衝撃を覚えたのを今でも鮮明に覚えています。自閉症について無知に近い私にとっては、自閉症療育や支援とは何なのか？と、日々考えさせられました。でも、今思えばそこからがスタートだったのだと思うことができます。先輩方や保護者の方々に利用者との関わりについて、色々なレクチャーや助言をいただき、関係性があってこその支援というように考えられるようになりました。

めぶき園で５年、どんこの里いぬかいで１年、現在は発達障がい者支援センターで１年目を過ごしていますが、めぶき園で学んだ利用者との関わりを大切にし、今後の支援に携わっていきたいと思います。また、10年、20年後もその気持ちを忘れずにいれるよう、法人と共に歩み、日々精進していきます。今後ともよろしくお願い致します。

★主任支援員　　釘　宮　奈保美

めぶき園に勤務するようになって７年目を迎えています。時が経つのは早く、あっという間に７年が経ったように感じます。大学を卒業したばかりの私は、分からないことばかりで不安で仕方がありませんでした。先輩方の対応を見よう見まねでしてみても、うまくいかないことが多く、「自分には向いていないのかもしれない」と悩む日々でした。そんな中、出勤すると笑顔で元気良く挨拶してくれたり、「大好き」と言ってくれた利用者の方、声をかけたら笑顔で傍に来てくれた利用者の方、優しく声をかけてくれた保護者の方、色々な相談にのってくれ、アドバイスをくれた先輩方のおかげで今まで頑張ってこれました。

これからも日々勉強中ではありますが、利用者の方々が楽しく、安心できるような快適な場所を作っていけたらと思っています。そして、利用者の方々と一緒に私自身も成長していきたいと思います。

★主任支援員　　小　野　淳一郎

私がめぶき園で働き始めて三年半が経とうとしています。当時、職員は今の半数程で、パート職員として採用され間もない私が、右も左も分からないまま利用者対応をする日も多々ありました。しかし『たかが三年されど三年』で、少ない職員だったからこそ利用者と密に関わることができ、その時間が私と利用者の関係を築いてくれたと感謝しています。

現在、私は農園芸課の担当として利用者三名と共に野菜作りに取り組んでいますが、法人の事業拡大とともに農地の面積も増え、毎日畑での仕事に追われる日々です。同時に三名の利用者も春夏秋冬関係なく畑に出ており、中でも農園芸課のエースである利用者は、毎日鍬を手に汗を流し、泥だらけになりながらも頑張っている姿には本当に頭が下がる思いです。

これからも発展していくめぶき園と成長していく利用者。私も支援を通して学んだことを糧に、支援員として成長していけるよう日々努力していく覚悟です。

保護者・家族編

（50音順）

★保護者　　安　東　幸　一

「社会福祉法人萌葱の郷」創立二十周年を心よりお慶び申し上げます。

あれから二十年、「光陰矢の如し」と申しますが、全くの「無」の中から現在六事業の社会福祉法人を創り出した関係者の方々に、心より感謝申し上げます。特に理想的な自閉症施設実現のため開園前の準備段階から、「国・県・犬飼町」等に強力に働きかけ苦労を重ねてきた五十嵐園長、矢野、岡本両氏に敬意を表したいと思います。

私も微力ながら初代理事長　高田哲治さんのもと、監事を拝命し二十年の歳月となりました。現在、不安定な政権運営で「障害者自立支援法」を廃止し、総合的な制度をつくる等の政策も遅々として進まず先行き不透明ですが、これからの萌葱の郷の益々の発展を期待し、園長スタッフの情熱ある頑張りと、保護者会の団結を願ってお祝いの言葉といたします。

★保護者　　岡　本　保　博

社会福祉法人萌葱の郷めぶき園が大きく発展して迎えられた創設二十周年、誠におめでとうございます。設立、経営に深く関わった者として、感慨一入で筆を執りました。

昭和六十三年八月、施設設立発起人会発足から僅か二年九ヶ月で開園しました。この種の施設開設は建設用地の決定だけで数年要すると言われている中で成し得た事でした。その陰には関係各機関、自治体の並々ならぬご指導、ご支援、ご協力がございました。

一、大分県の率先指導

担当窓口の大分県障害福祉課は、保護者の活動にも目を向けて下さり、自閉症者への対応の難しさ、入所施設の必要性をご理解戴き、国への働きかけや先進施設の視察等されて、施設設立に向けて積極的なご指導を戴きました。

二、犬飼町の誘致・助成

土地探しに奔走していた時に、知人を通じて犬飼町に陳情した結果、地元説明会や施設見学会を積極的に実施して、地元の建設同意を取り付けると共に、建設用地を造成のうえ誘致して戴きました。

三、めぶき園利用者保護者会の協力

施設設立に向け、保護者全員が資金援助をしました。開園後も資金援助を続けると共に、環境整備や地元に根付くため、めぶき園まつり等の労力奉仕を行い、また、当時公に認められていなかった週末帰宅を実施してきた。保護者の活動は地道なもので表に出ませんが、園と子ども達を盛り上げるため、一丸となって取り組んできました。

これまで応援して下さいました多くの皆様に改めて御礼を申し上げます。

★保護者　　柿　坂　重　治

＜萌葱の郷めぶき園　創立20周年＞心よりお慶びとお祝いを申し上げます。

『十年一昔』と申しますが、めぶき園が犬飼に開園したのは、もう二昔も前の事になります。周囲を山や林に囲まれた高台にあり、静寂で眺望佳く恵まれた環境に、此処でなら子供も安心し、落ち着いて暮らしてくれるのでは…と、初めて訪れた時に心に願った事を思い出します。

めぶき開園以前、五十嵐園長の話を聞く機会があり、その中で園長自身が自閉症者に対する他ならぬ想いを持ち、亦、障害者であっても一人の人間である事、基本的人権や養護教育の在り方など、基本を重視した療育環境を整え、普通の人と同じ暮らしが出来る施設を作るのだ、との強い理念、信念を語って居られました。この方ならば、子供を安心して預けられる、将来に渡って幸せな暮らしを守ってくれるのでと、その時思った次第です。

20年と云う永い時間の蔭で子供は心身共に大きく成長致しました。これも一重に園長を始め職員の努力、保護者、関係者の御協力が在ってこそと、感謝致して居ります。

初夏、園内での運動会、久住山や坊がつるへの夏山登山、夏の終わりに九重や直川などでの一泊キャンプ、そして晩秋のめぶき園祭りと、利用者、職員、保護者が互いに持てる知と技で助け合いながら楽しんだ事が思い出されます。

家康の遺訓に「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず」とあります。私共は、我が子の手を曳き、行き止まりの無い道を、生ある限り歩き続けなければなりません。途中で諦め、投げ出す事も、引き返す事も出来ないのです。

最後に＜萌葱の郷めぶき園＞の今後の発展と末永い繁栄を願うと共に、養護施設として利用者に対し園長の想う真の療育、心の通い合う療育を目指して、子供達を幸せにして上げて下さい。

有難う御座いました。

★保護者　　武　井　清　展

「私の履歴書　武井のぶみ」

私は昭和48年別府市で生まれ、市立朝日小学校特殊クラスを卒業後、大分大学附属養護学校中等部に入学しました。そこでＳ先生と出会い初恋を経験し、平成３年高等部２年の時めぶき園が立ち上がったため、やむなく中途退学し入園。その後色々ありましたが、Ｎ・Ｋ・Ｋ・Ｈ等々に恋をし、夢多き人生を送っておりました。

平成21年にケアホームかわしまでグループホームの生活を始めると、Ｎ・Ｋまた今年にはＨまで私の側に来てくれました。この先10～20年後には私を慕ってどんな人が来てくれるのでしょうか。楽しくてしょうがありません。

皆様、今後ともよろしくお願いします。

最後になりましたが、女性職員の方々にも色々とお世話になっております。改めてお礼を申し上げます。

ともかく家に居る時よりもケアホームかわしまやどんこの里いぬかい等、他の利用者や職員の方と一緒の方が大好きなようで、迎えに行った帰りの車中でも、いつ送ってくれるのか帰園を楽しみにしています。これからも住みよい環境を続けて下さい。

★保護者　　松　田　邦　博

早いもので16歳で娘がめぶき園でお世話になり始めて20年になります。この間に法人も多くの事業を手がけ、見違えるように大きくなりました。理事長を始め、関係者のご尽力の賜物と思います。ご苦労様でした。

さて、関東大震災に始まった民間活力の投入による社会福祉活動は、この後、社会福祉法人制度へと発展し、今では全国の社会福祉法人の総資産14兆円、純利益は4千数百億円と言われています。日本一企業のトヨタ自動車をしのぎます。一方、国は多くの借金を抱え、税収が足りないため、消費税の値上げや増税。また、歳出では公務員給与の1割カット等が言われています。これらは次期衆議院議員選挙後だと思われます。その後にくるのは社会福祉法人への歳出カットです。

大きくなった法人事業を今一度検討し、この時に備えておく必要があります。弱者である子供達にこの影響があってはいけません。経営者の方々も大変とは思いますが、一層の頑張りをお願いします。

★保護者　　山　田　政　之

期待と不安が交錯するなかで、新しい畳とペンキの匂う居室で荷物を解いたのを昨日の様に覚えている。顧みると利用者は10歳代後半であった。親元を離れ施設での期間が長くなり、すっかり園の生活に定着している。新年は成人式を始め四季の催は盛大で、特に秋は最大のイベントめぶき園祭と年中行事が実施された。改めて20年の歳月と時の流れを感じる昨今です。「光陰矢の如し」である。この間に於ける多くの人との出会いがあり、皆様のご支援とご協力に感謝し、今日迄利用者、職員、保護者が一体となって事業活動や各種行事を通し、育み培われた強い絆は目に見えない財産であろう。そして、今後に生かさなければならない。忘れてはいけない事は、地域の皆様のご理解とご協力が大きな支えになったことである。

私達も残余の時間が短くなるなかで、めぶき園の行く末を案じながら夢と希望を実現し、結果を出す事が求められている。

「20周年記念」万歳

★保護者　　矢　野　　丞

めぶき園創立二十周年記念おめでとうございます。

二十数年前、現　五十嵐園長と出会い、施設設立し親の会をつくり、親亡き後子供達の「終の住処」を夢見て、実現へと取組みを始めました。夏の療育キャンプ、年末のクリスマス会、月一回の大分大学教育学部での療育の会等の様々な活動をしていた「自閉症児・者親の会」が中心となりました。当時はまだ法人化されていない状態で、自閉症者を取り巻く環境は今と比べ厳しいものがありました。また、施設を創ることに対し当時は、全国的にみても地元住民の反対にあう等、様々な問題に直面し挫折していた状況でした。

やがてその問題を一つ一つ乗り越え、専門施設ができ始めていた頃でもあり、幸い犬飼町では地元住民の方の反対もなく恵まれていました。当時既存の施設の環境は、入所者の中でも特に自閉症者に対しては、療育の方法が確立しておらず厳しいものがありました。

親のしつけによる発症などと、誤った情報や物へのこだわり等々、療育・指導には混乱が生

じていました。また、自閉症者自身も混乱の中にいたように思います。

県下のある知的障害者施設を親の会の当時の役員と見学した際、「俺たちは自閉症者のための施設を創ろうやな」と言ったことを覚えています。施設が自閉症者対象であれば、療育方法も確立するのではないかと思い、平松知事に訴え、ご理解頂き、「県下初の自閉症専門施設を創る」ことに繋がりました。思い出せば、行政・地域・関係機関の多くの方のご協力とご支援によりここまでに至りました。

私も残された時間は少ないと思いますが、将来に向かって施設で最低限は子供達がおかれている環境を親亡き後も守り続けてほしいと思います。

二十周年を節目として、益々の発展を念じます。

資　　料

【役員名簿】

役職名	氏名	任期
理事長	高田哲治	H2．9．21～H12．9．9
	池邉昭則	H12．9．10～H19．5．31
	五十嵐康郎	H19．6．1～
理事	石井哲夫	H2．9．21～H16．3．27
	野村勝彦	H2．9．21～H21．5．31
	林良徳	H2．9．21～H15．5．31
	矢野丞	H2．9．21～H23．5．31
	岡本保博	H2．9．21～H23．5．31
	時増弘則	H2．9．21～H19．5．31
	高瀬泉	H15．6．1～H16．3．27
	五十嵐康郎	H2．9．21～
	原田竜二	H19．6．1～
	五十嵐猛	H19．6．1～
	田嶋一廣	H21．6．1～
	仲間克之	H23．6．1～
	上杉哲夫	H23．6．1～
監事	石槫義之	H2．9．21～H9．5．31
	安東幸一	H2．9．21～
	石槫幸二	H9．6．1～
評議員	五十嵐康郎	H16．3．28～
	石井哲夫	H16．3．28～H21．5．31
	野村勝彦	H16．3．28～H21．5．31
	矢野丞	H16．3．28～H23．5．31
	岡本保博	H16．3．28～H23．5．31
	時増弘則	H16．3．28～H23．5．31
	高瀬泉	H16．3．28～H23．5．31
	五十嵐猛	H16．3．28～
	原田竜二	H16．3．28～
	田嶋一廣	H16．3．28～
	武井清展	H16．3．28～
	足立義信	H16．3．28～H23．5．31
	福田和彦	H16．3．28～H20．9．11
	佐田裕子	H19．6．1～H23．5．31
	野上悦生	H20．9．12～
	芦刈四郎	H21．6．1～H23．5．31
	佐藤晋治	H21．6．1～
	伊美信長	H23．6．1～
	平野亙	H23．6．1～
	中村廣光	H23．6．1～
	本田敏明	H23．6．1～
	仲間克之	H23．6．1～
	上杉哲夫	H23．6．1～

【 現 職 員 名 簿 】

◆障害者支援施設　めぶき園

役　職　名	氏　　名
施　設　長	五十嵐　康　郎
事　務　長	原　田　竜　二
支 援 課 長	野　上　悦　生
主任栄養士	廣　瀬　美　恵
主任看護師	首　藤　千鶴代
主任支援員	木　下　祐　市
主任支援員	丹　生　朱　美
主任支援員	釘　宮　奈保美
主任支援員	小　野　淳一郎
支　援　員	工　藤　貴　志
支　援　員	田　島　良　平
支　援　員	渡　邉　紀　暁
支　援　員	後　藤　伸　二
支　援　員	朝久野　　圭
支　援　員	能　一　由起子
支　援　員	瀧　田　優　美
支　援　員	羽田野　ユカリ
支　援　員	後　藤　侑　子
支　援　員	工　藤　ともみ
支　援　員	松　井　睦　美
支　援　員	油　布　初　美
支　援　員	田　邊　　恵
事　務　員	高　倉　千　佳
栄　養　士	後　藤　佳　淑
調　理　員	後　藤　裕　子
調　理　員	黒　田　智　美
非　常　勤	竹　内　峰　子
非　常　勤	成　井　映　子
非　常　勤	長谷部　香代子
非　常　勤	坂　井　奈緒美
非　常　勤	後　藤　哲　夫
非　常　勤	中　澤　奈　緒
非　常　勤	小　野　博　文

◆ケアホーム　かわしま

役　職　名	氏　　名
支 援 課 長	近　藤　暢　秀
世　話　人	森　　由　美
支　援　員	濱　野　美　香
支　援　員	福　島　陽　子

◆こども発達支援センター　なごみ園

役　職　名	氏　　名
係　　長	秋　月　正　博
指　導　員	新　宮　貴　志
指　導　員	森　　敦
指　導　員	浦　田　智　春
非　常　勤	大　岩　比佐枝
非　常　勤	合　田　紀　子
非　常　勤	井　上　玲　子
非　常　勤	木　下　裕　子
非　常　勤	下　村　美　晴
非　常　勤	木　村　隆　子
非　常　勤	阿　部　京　子

◆大分県発達障がい者支援センター　ECOAL

役　職　名	氏　　名
センター長	五十嵐　　猛
主任相談員	田　中　秀　征
主任相談員	姫　野　康　成
相　談　員	中　山　千　春

◆ホームヘルプサービスセンター　らすかる

役　職　名	氏　　名
支 援 課 長	福　田　和　彦
支　援　員	舎　川　正　和
支　援　員	斉　藤　鈴　代

◆就労支援施設　どんこの里いぬかい

役　職　名	氏　　名
支 援 課 長	佐　藤　任　孝
支　援　員	山　口　英　明
支　援　員	谷　嵜　真　子
支　援　員	小　野　阿　子
生活支援員	河　野　　晋
職業指導員	工　藤　進　悟
支　援　員	前　原　祐　輔
非　常　勤	五十嵐　康　子
非　常　勤	伊　藤　洋　子
非　常　勤	向　畑　美　鈴
非　常　勤	田　嶋　一　廣

◆編集後記

この創立 20 周年記念誌を編集することになり３ヵ月。なんとか記念誌をお届けすることができ、「ホッ」としております。記念誌を編集することで 20 年間を振り返り、多くの方々のご厚意、ご支援を受けて萌葱の郷が現在に至ることを改めて感じております。

記念誌の作成に携わり、恥ずかしながら、初めての作業と勉強不足で内容の方向性が中々定まらず、やっとタイムリミットに間に合った次第です。

最後になりましたが、本記念誌の発刊にあたり、原稿の寄稿その他多くの御協力を賜りました関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

編集委員一同

社会福祉法人萌葱の郷　20周年記念誌

■発行日／2011年10月28日

■発行所／社会福祉法人　萌葱の郷
〒879－7306
豊後大野市犬飼町下津尾4355番地10
TEL　０９７－５７８－０８１８
FAX　０９７－５７８－０８１９
E-mail：mebukien@moeginosato.net

■印　刷／有限会社　民友印刷社